

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390451

研究課題名(和文)精神科外来における精神疾患患者への支援・相談機能の強化

研究課題名(英文) Strengthening of support and counseling functions for patients with mental disorder in psychiatric outpatient units

研究代表者

田上 美千佳 (TANOUE, Michika)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：70227247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,800,000円、(間接経費) 2,040,000円

研究成果の概要(和文)：精神疾患患者及び家族への適切な精神科外来受診の支援体制の構築に寄与し、精神疾患患者再入院の予防・病状悪化の早期発見や適切な支援による患者と家族への地域生活の促進を図るためのケアの方向性の明確化を最終目的とし、精神科外来支援の課題と援助の在り方を検討した。  
すなわち、1.1)退院患者調査実施、2.認可されている全精神科救急入院料(スーパー救急)病棟における退院支援・外来ケアに関する2)看護管理者調査、3)患者ケアに関する全国悉皆調査の実施、3.外来との連携や家族ケアを含め、退院後の安定した地域生活のための支援の不足が明確となった。4.調査結果をふまえ、病棟と連携した外来支援プログラムを策定した。

研究成果の概要(英文)：This research contributed to establish a support system at outpatient visits for patients with mental disorder and their families. The goal was to find ways to support early detection and prevention of progression of the illness, prevention of re-hospitalization for patients with mental disorder and families, and promoting community living, by investigating nature of support and challenges at the psychiatric outpatient units.

1) At psychiatric emergency hospitals(super emergency), nationwide survey to nursing administrator about patients who were discharged was conducted for hospital's discharge support and outpatient care.2) The lack of support in discharge, including cooperation with outpatient care and family care became clear. There was a lack of support for families to have a community life as well.3) We have developed outpatient assistance program based on the result.

研究分野：臨床看護

科研費の分科・細目：精神看護

キーワード：精神科救急入院料病棟 精神疾患患者 精神科外来 退院 看護支援 地域生活

## 1. 研究開始当初の背景

厚生労働省社会保障審議会精神障害分会は2002年12月に約7,200人の精神科社会的入院患者を10年以内に社会復帰させることとした。さらに、2009年には2014年までに4,600人の統合失調症患者を退院させるという数値目標を掲げたように精神疾患患者の退院が促進されている。同時に、救急・急性期治療の充実を図り短期入院で地域生活を促すことにも重点がおかれている。

研究代表者らは、これまで長期入院患者ならびに精神科急性期病棟入院患者の退院を促進する患者や家族へのケア、さらに精神疾患発症時の早期ケアについて検討してきた<sup>2,4-7)</sup>。その過程で地域生活促進のためには退院支援のみならず、退院後をふまえたケアの重要性が確認された。つまり、精神障害者やその家族が入院中や退院後に適切な医療や支援を受けることが、早期に回復することにつながり、再入院や長期入院の抑制に効果をもたらすだけでなく、長期的視点から患者や家族にとって生活の質(QOL)の高い地域生活の促進につながっていくのである。

精神科救急入院料病棟(以下、スーパー救急病棟と記す)は2005年には25施設であったが、2009年には56施設、2010年8月時点で80施設あり、増加の傾向にある。スーパー救急病棟は短期間の入院治療により早期退院を目的とし、診療報酬は精神科救急入院料1では、入院30日以内の期間では1日あたり3,451点、31日以上期間では3,031点と精神科の診療報酬の中では高額であるが、ケアの統一した指針は示されていない。したがって、新規認可病棟の急増はケアの質の低下を招く危険も大きい。また、認可されている80施設のうち52施設は民間の医療機関であり、この民間病院の割合の多さは、各医療機関にケアが委ねられ地域や医療機関によるケアの特徴や特異性が顕著である可能性が高い。加えて、外来ケア充実のニーズは存在するものの現状では、注力されていない現状が見られる。

研究代表者らは、これまで行ってきた精神科長期入院や急性期病棟入院患者の退院にむけたケアを検討する過程で、地域生活促進のためには発病早期からの適切なケアならびに退院支援から外来でのケアの重要性を確認した。つまり、

精神障害者やその家族が入院中から退院後に適切な医療や支援を受けることが、早期に回復することにつながり、再入院や長期入院の抑制に効果をもたらすだけでなく、長期的視点から患者や家族にとって生活の質(QOL)の高い地域生活の促進につながっていくのである。特に、スーパー救急病棟から退院してすぐに再入院する、いわゆる“回転ドア”現象をもたらさないためには、入院から在宅生活を継続するための患者と家族への支援が必要になる。

## 2. 研究の目的

精神疾患患者および家族の適切な精神科外来受診の支援体制の構築に寄与し、精神疾患患者の早期支援ならびに再入院の予防・病状悪化の早期発見・対応による患者と家族への地域生活の促進を図るためのケアの方向性を検討することを最終目的とした。すなわち、次の3点を検討することによって、最終目的の達成を図った。

- 1) 精神科スーパー救急病棟退院後の精神疾患患者への退院支援、精神科外来支援、退院後の生活の実態およびケアニーズを把握して、ケアの現状と課題を明らかにする。
- 2) 1)の結果をふまえて、病棟及び外来診療部門と連携した外来支援の機能強化と看護師による相談機能を高める支援方法と支援内容を明らかにして、精神科スーパー救急病棟ならびに精神科外来での退院および外来支援モデルを策定・評価する。

## 3. 研究の方法

### 1) 調査内容

1期調査と2期調査の2段階に大別して示す。

#### 1期調査：退院患者および看護ケア調査

1期では次の3調査を実施した。

調査1：退院したユーザー(以下、患者と記す)からのスーパー救急・急性期病棟および外来・地域ケアの実態把握・ケアニーズ調査(以下、患者調査と記す)

調査2：看護管理者への調査による病棟からの早期退院ならびに退院後の地域生活の向上を促進する看護ケアの要因および課題の明確化(以下、

看護管理者調査と記す)

調査3：退院したスーパー救急病棟患者の退院支援及び退院後ケアの実態把握(以下、悉皆調査と記す)

## 2) 方法

1 期調査：退院患者および看護ケア調査

調査1：患者調査

### (1) 調査対象者

現在、精神科病院の外来に通院をしており、スーパー救急病棟および急性期治療病棟に入院経験がある(休息入院を除く)かつ、調査時点で退院後1か月以上～6か月以内の期間が経過している、統合失調症ならびに気分障害圏を中心とした精神疾患の診断を受けている、病状の安定等の条件から、主治医等によりインタビューによる侵襲がないと判断され主治医の了解が得られている者。上記の要件を満たす患者で研究への協力同意が得られた63名

### (2) データ収集方法および分析方法

半構成面接：質問内容は、デモグラフィックデータに加え、現在の1日の生活や療養の様子、困り事の有無・外来受診状況・外来診療時間・外来で提供してほしいサービスや支援・外来診療以外の相談の必要性等を面接の指針に沿って実施した。面接内容は了解を得て録音した。

インタビューは逐語録を作成して、内容を質的に分析した。すなわち、ケース毎に、の質問項目に沿って該当する内容を抽出し、ケアニーズをケース間で比較、検討した。結果については、共同研究者らと検討を行った。

調査2：看護管理者調査

(1) 調査概要：スーパー救急病棟からの早期退院ならびに退院後の地域生活の向上を促進する看護ケアの要因および課題を明確にする目的で、スーパー救急病棟への全国調査を行い、入院中および外来診療での看護ケア、ケアプログラムの実態を明らかにし、年間退院比率との関連について検討した。

(2) 調査方法：スーパー救急病棟全80機関(平成22年8月時点)の病院管理者・看護部長ある

いは病棟師長に対して、郵送法による自記式質問紙調査を実施した。調査内容は平成21年度機関概要・病棟運用状況、スーパー救急病棟での退院や地域生活にむけた看護ケアやケアプログラム実施の有無であった。

調査3：悉皆調査

(1) 調査概要：退院したスーパー救急病棟患者の退院支援及び退院後ケアの実態把握

(2) 調査対象：精神科スーパー救急病棟として認可を受けている全80施設(平成22年8月時点)で指定調査期間2週間の間に退院したすべての患者の受け持ち看護師。

(3) 調査方法：郵送法による質問紙調査。

(4) 調査内容：対象者・患者のデモグラフィックおよび対象者が担当し、指定調査期間中に自宅およびグループホーム等へ退院した患者に行った退院後の生活に向けたケアプログラム・個別ケアについて、実施の有無と実施時期を問う自記式質問紙。個別ケアの内容は、服薬管理・疾病教育・症状マネジメント・対人関係・家族ケア・退院後の生活調整・外来との連携に関する7側面37項目からなる質問構成であった。

(5) 分析方法：記述統計および～での患者属性やケア項目の比較を行い、関連や相違を把握した。入院期間別に30日未満、30から59日、60日から99日の3群に大別、入院回数および診断別、退院後の生活形態等、在院日数と患者属性ならびにケア項目の関連。

2 期調査：ケアプログラムの策定・実施・評価

概要：患者や家族の地域生活を促進し、スーパー救急病棟入院中から退院後の外来ケアの質の向上につながる「ポスト救急・外来ケアプログラム」の開発を行う。すなわち、以下を実施した。

(1) ポスト救急・外来ケアプログラムの作成、評価内容・方法の検討

(2) ポスト救急ケアプログラムによる介入研究の実施とその評価ならびに支援プログラムの提示

## 3) 倫理的配慮

実施にあたっては、筆頭者所属機関、日本精神科看護技術協会および必要とされた対象機関の倫理委員会の審査、ならびに対象機関の看護部長への調査依頼による承諾を得た。質問紙調査は無記

名でデータは統計的に処理し、インタビュー調査、質問紙調査共に、収集したデータについてはプライバシーや匿名性の保護に努め、データは筆頭者所属機関において厳重に管理した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 結果及び考察

##### 1 期調査：退院患者および看護ケア調査

##### 調査 1：患者調査

- (1)退院後の患者の生活範囲は限定され、相談相手も家族が中心であり、相談相手として医師以外の専門職へのニーズは高かった。
- (2)必要時や社会資源の少ない患者や初発患者などのニーズの高い対象に対応できる外来支援の機能強化、すなわち看護師による相談機能を高める必要性が明確になった。

##### 調査 2：看護管理者調査

80 機関中 44 機関からの有効回答を得た。その結果、以下の示唆を得た。

- (1)全国のスーパー救急病棟において、退院に向けた看護ケアはおおむね 80%以上実施されていた。
- (2)看護師が主体的にケアプログラムを導入できる方が自宅および福祉的施設へ退院していた。自宅および福祉的施設への退院が多い機関ほど、退院した患者に初回受診の有無を確認するという外来での支援がなされていた。
- (3)退院後を支援する体制の構築や外来ケアとの連携、外来ケアについては、十分なケアの実施やケア体制が構築されているとはいえなかった。

##### 調査 3：悉皆調査

80 機関中 67 機関からの回答、有効回答 482 件の有効回答を得た。

- (1)入院期間別にみると、スーパー救急病棟における退院後の生活にむけたケアは入院後半に行われ、入院期間の長い群の方がさまざまなケアが実施されていた。つまり、退院に向けて濃厚なケアを行う必要性の高いケースほど入院期間が長くなり、30 日未満の入院では地域資源と結びつけずに退院している傾向が推察された。

- (2)患者の主診断・入院回数によって看護師の退院に向けたケアの提供内容や実施率に差がみられた。

- (3)退院後の生活形態、つまり単身・同居別でみると、同居・単身でのケアの違いは顕著ではないが、退院後の居住形態をふまえたケアが行われていることが推察された。しかし、服薬管理継続の実施は、単身群でやや多いものの、実施率の多くは 20~40%と両群ともに高いとはいえなかった。家族ケアは単身に比べて同居には多く行われていたが、その実施状況はほぼ 50%以下であった。さらに、退院後の社会資源につなげるためのケアが単身に多く行われていたが、実施率は両群共に 40%以下であり、再入院予防や地域生活充実のためには、同居・単身ともに社会資源導入、外来・地域医療福祉等の関係機関連携・調整が課題として明らかになった。

- (4)在院日数を従属変数として、病院間のばらつきを調整したマルチレベル線形回帰分析からは、入院時年齢が高いこと、主診断（統合失調症）入院形態が非同意であること、人との関わりに関する看護ケアが早期から実施されていることが、入院期間の長さとは有意な関連を示していた。

##### 2 期調査：ケアプログラムの策定・実施・評価

- (1)ポスト救急・外来ケアプログラムの作成、評価内容・方法の検討

1 期調査結果を踏まえ、連携研究者ならびに研究協力者と協働してスーパー救急病棟入院中から退院後の外来ケアに関するケアプログラムを策定し、評価内容方法を提示した。

- (2)ポスト救急ケアプログラムによる介入研究の実施とその評価ならびに支援プログラム

ケアプログラム導入に向けた準備教育・調査を行い、ケアプログラムを提示した。

##### 2) 結論

退院後の生活をふまえたケアとして、スーパー救急病棟における入院中からの基本的な看護ケアの格差の是正、退院後の生活をふまえた看護師による主体的なケアプログラム導入、家族および関係機関連携・調整に関する支援充実の必要性が示唆された。さらに、地域生活の継続促進に向けて、病棟と外来との連携に関するケアの不足が見出された。つまり、スーパー救急病棟と外来との連携

強化を含めて外来ケアの充実を図ることの必要性が再確認された。

これらの結果をふまえて、入院中の病棟と外来の連携を促進して継続的な支援の実施につながるケアプログラムを策定し、提示した。

精神疾患患者とその家族への地域生活支援の充実は、急務の課題である。また、現在の精神保健福祉において、患者や家族と医療機関とのつながりは重要である。今回はスーパー救急病棟からの退院および外来支援に焦点をあてて実施した。今後は、介入研究の充実によるポスト救急・外来ケアプログラムのさらなる臨床応用にむけた検討、ならびに、多くの精神科外来診療部門で実施できるプログラムの開発による外来機能の充実・強化が求められる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

- 1) 新村順子, 田上美千佳, 山村礎, 平田豊明, 野中順子, 飛鳥井望, 精神科救急入院料病棟における退院に向けた看護ケアの特徴 - 統合失調症と気分障害を中心に -, 日本精神科救急学会誌, 査読有, 17 巻, 2014, in press

[学会発表](計12件)

- 1) 新村順子, 田上美千佳, 山村礎, 平田豊明, 野中順子, 飛鳥井望, 精神科救急入院料病棟における退院に向けた看護ケアの実施状況の分析: クリニカルパスの実施の有無に焦点をあてて, 第33回日本社会精神医学会・総会プログラム・抄録集: 105, 東京, 2014/3/21
- 2) 田上美千佳, 新村順子, 山村礎, 平田豊明, 野中順子, 飛鳥井望, 精神科救急入院料病棟における退院支援に関する研究: 退院後の居住形態からみたケア, 第33回日本社会精神医学会・総会プログラム・抄録集: 76, 東京, 2014/3/21
- 3) 田上美千佳, 新村順子, 山村礎, 精神科救急入院料病棟患者の退院後の生活に向けたケア: 入院時期による検討, 第33回日本看護科学学会学術集会・総会プログラム・抄録集: 636, 大阪, 2013/12/7
- 4) 田上美千佳, 精神科看護の原点: 臨床・研究・地域の叡智を伝承する. 形のないものを可視化し、共有する試み: 研究所からの

伝承, 日本精神保健看護学会第23回学術集会・総会プログラム・抄録集: 37, 京都, 2013/6/15

- 5) 田上美千佳, 新村順子, 山村礎, 大竹眞裕美, 精神科救急入院料病棟患者の退院に向けたケア: 入院期間からみた患者の状況とケアの実態, 日本精神保健看護学会第23回学術集会・総会プログラム・抄録集: 136-137, 京都, 2013/6/16
- 6) 新村順子, 田上美千佳, 大竹眞裕美, 鈴木利枝, 精神科救急入院科病棟および精神科急性期治療病棟を退院したユーザーの地域生活の実態: インタビュー調査その1, 日本精神保健看護学会第22回総会・学術集会プログラム・抄録集: 178-179, 熊本, 2012/6/24
- 7) 田上美千佳, 新村順子, 大竹眞裕美, 鈴木利枝, 精神科救急入院科病棟および精神科急性期治療病棟を退院したユーザーの外来ケアニーズ: インタビュー調査その2, 日本精神保健看護学会第22回総会・学術集会プログラム・抄録集: 180-181, 熊本, 2012/6/24
- 8) 田上美千佳, 新村順子, 飛鳥井望, 平田豊明, 山村礎, 野中順子, 精神科救急入院料病棟における運用状況と退院にむけたケアの実態: 第1報, 第31回日本社会精神医学会プログラム・抄録集: 81, 東京, 2012/3/15
- 9) 新村順子, 田上美千佳, 飛鳥井望, 平田豊明, 山村礎, 野中順子, 精神科救急入院料病棟における運用状況と退院に向けたケアの状況: 第2報, 第31回日本社会精神医学会プログラム・抄録集: 81, 東京, 2012/3/15
- 10) 新村順子, 田上美千佳, 飛鳥井望, 平田豊明, 精神科スーパー救急病棟における退院および地域生活に向けたケア第1報: 看護管理者調査からみたケアの実態, 第19回日本精神科救急学会プログラム・抄録集: 151, 宮崎, 2011/10/21
- 11) 田上美千佳, 新村順子, 飛鳥井望, 平田豊明, 精神科救急入院料病棟における退院および地域生活にむけたケア第2報: 看護管理者調査からみたケアの課題, 第19回日本精神科救急学会プログラム・抄録集: 152, 宮崎, 2011/10/21
- 12) Ohtake M, Nakayama Y, Kato I, Tanoue M, Niimura J, A survey of Psychiatric Emergency Unit in Japan: Focus on the length of hospital stay. 19th International Conference on Health Promoting Hospitals & Health Services, Turku, Finland Abstract Book: 166, 2011/6/2

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田上 美千佳 (TANOUE Michika)  
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・  
教授  
研究者番号：70227247

### (2) 研究分担者

新村 順子 (NIIMURA Junko)  
公益財団法人東京都医学総合研究所・精神行  
動医学研究分野・研究員  
研究者番号：90360700

### (3) 連携研究者

山村 礎 (YAMAMURA Motoe)  
首都大学東京・保健福祉学部・教授  
研究者番号：00260323

大竹 眞裕美 (OHTAKE Mayumi)  
前福島県立医科大学・准教授  
研究者番号：70315670

### (4) 研究協力者

鈴木 利枝 (SUZUKI Rie)  
東京武蔵野病院副看護部長・外来師長

則村 良 (NORIMURA Ryo)  
駒木野病院 CNS